

# 果樹カメムシ類情報第2号

平成29年8月1日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## 1 チャバネアオカメムシの発生状況

- (1) 予察灯における誘殺数は、豊橋市、新城市ともに少ない状況が続いています(図1)。
- (2) フェロモントラップにおける誘殺数は、豊田市、幸田町、豊川市、新城市のいずれの地域でも、少ない状況が続いています(図2)。

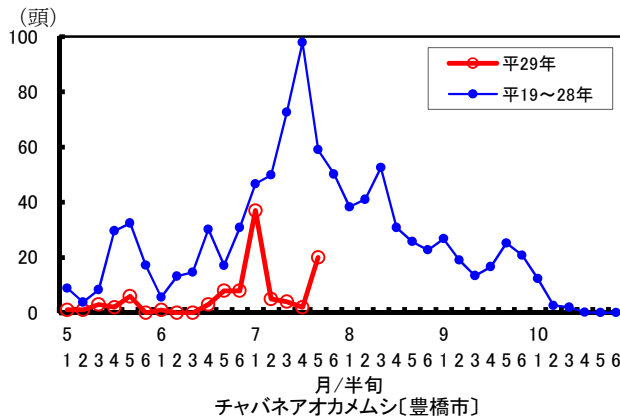


図1 予察灯における誘殺状況

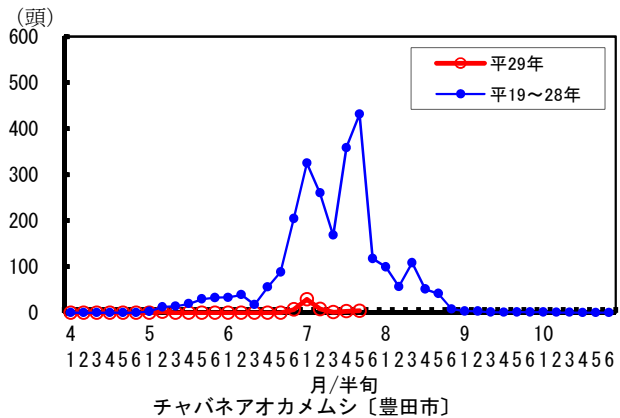


図2 フェロモントラップにおける誘殺状況

- (3) 7月下旬のヒノキ1結果枝当たりのチャバネアオカメムシの生息虫数は、成虫が0.15頭(平年0.27頭)、幼虫は0.00頭(平年0.34頭)でした(図3)。ヒノキ球果におけるカメムシ類の口針鞘数が25本になると、ヒノキ球果から離脱すると言われています。7月下旬の口針鞘数は6調査地点平均で2.5本ですが、蒲郡市神ノ郷町では6.7本と他の地域に比べてやや多い状況です(表1)。

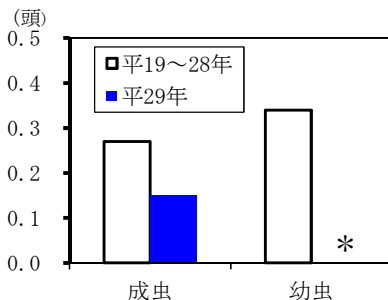


図3 7月下旬のヒノキ球果におけるチャバネアオカメムシ生息虫数(\*:捕獲なし)

表1 7月下旬のヒノキ球果におけるカメムシ類の口針鞘数

調査地点	豊橋市 嵩山町	豊川市 東上町	蒲郡市 清田町	蒲郡市 神ノ郷町	岡崎市 明見町	幸田町 須美
1球果当たりの口針鞘数	2.3	3.9	1.1	6.7	0.7	0.1
離脱開始予測時期	9月上旬	9月上旬	9月中旬	8月下旬	9月中旬	9月中旬
ヒノキ球果採取日: 7月26日						

## 2 今後の発生予測

- (1) 越冬世代成虫から新世代成虫への世代交代時期に入っています。ヒノキ球果の着生量がやや多いため、8月上旬以降に発生する新世代成虫の発生量は、平年と比較してやや多くなると予測します。
- (2) 新世代成虫の果樹園への飛来時期は、7月下旬時点のヒノキ球果の口針鞘数から、9月上旬以降と予測します。そのため、8月における新世代成虫の果樹園への飛来量は少ないと予測します。
- (3) ただし、蒲郡市神ノ郷町では、7月下旬の口針鞘数が他の地域に比べてやや多かったため、8月下旬から果樹園への飛来が始まるおそれがあります。そのため、同町近辺では、8月下旬以降、果樹園内をよく見て回り、果樹カメムシ類の飛来に注意しましょう。
- (4) スギ・ヒノキ林の近くの果樹園では、台風通過などで突発的に飛来が急増することがありますので、注意しましょう。